

地域商社

いわきユナイト株式会社 事業紹介

～いわきの「食」のブランディング・流通事業～

2021年3月5日



【社名】いわきユナイト株式会社

【代表】代表取締役CEO 田子 哲也 代表取締役COO 植松 謙

【所在地】福島県いわき市泉町1丁目8番地14

【資本金】1,100万円

【事業内容】

- ・いわきの地域資源のブランディング、プロデュース事業
- ・いわきの地域資源の流通事業
- ・各種コンサルティング事業

【沿革】

2016年8月 設立（植松 謙が代表取締役に就任）

2017年6月 田子 哲也が代表取締役に就任し共同代表制に移行

2017年7月 「地域商社」事業を開始

2017年9月 磐城国地域振興ファンドの投資を受け入れ増資

メンバー紹介



代表取締役CEO
田子 哲也

地元スーパー(株)マルト、山菱水産(株)の勤務を経て、平成27年に(株)T-Advanceを設立し、国内の食品と雑貨を扱うセレクトショップ「ブルーシュエット」を運営するほか、各地のスーパーマーケットに対するMD支援、商品設計や仕入れのアドバイスも行っている。



代表取締役COO
植松 謙

金融系の企業勤務を経て、平成23年に独立。中小企業診断士、6次産業化プランナー、農山漁村活性化支援人材バンク登録専門家として、各地の地域活性化支援や特産品開発支援を行ってきた。福島県の6次化イノベーターとして講演等も行っている。



梅田 春華
事務・企画・調査担当スタッフ

《現状の問題点》

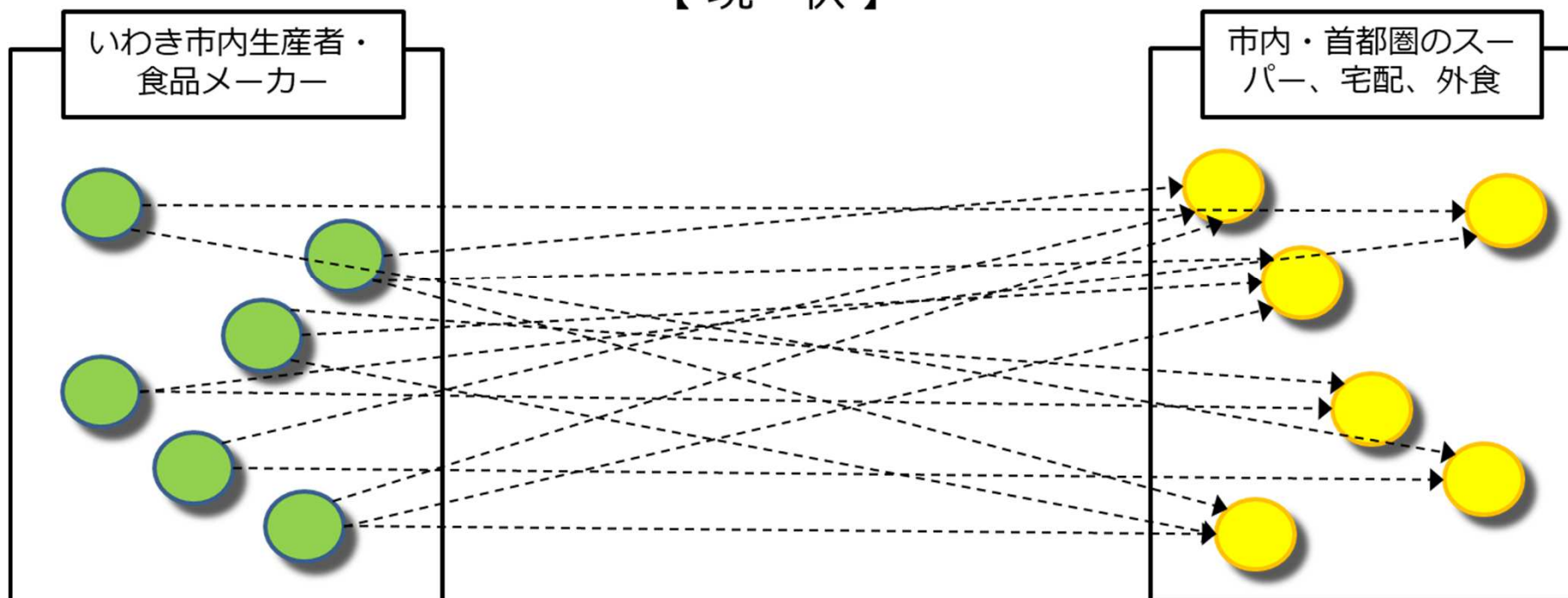
- ・ 1次産業は儲からない、子供に跡を継がせたくないという考えが蔓延している
- ・ 生産者が商品開発に取り組む6次産業化が盛んであるが、商品力・販売力が不足している（人材、資金も足りない）
- ・ 食品メーカーの多くが現状の殻を破れず、新しいことに取り組めないでいる
- ・ 原発事故による風評被害が残っている
- ・ 補償金をもらっている事業者の意欲が低下している

- ⇒ 意欲ある生産者・メーカーを発掘し、成功事例に育て上げることで全体の底上げを図る
- ⇒ 1次産業が儲かるモデルを構築する
- ⇒ 新しいいわきのイメージ（ブランド）を確立する

「地域商社」とは

« 「地域商社」 の役割 »

【現 状】



【問題点】

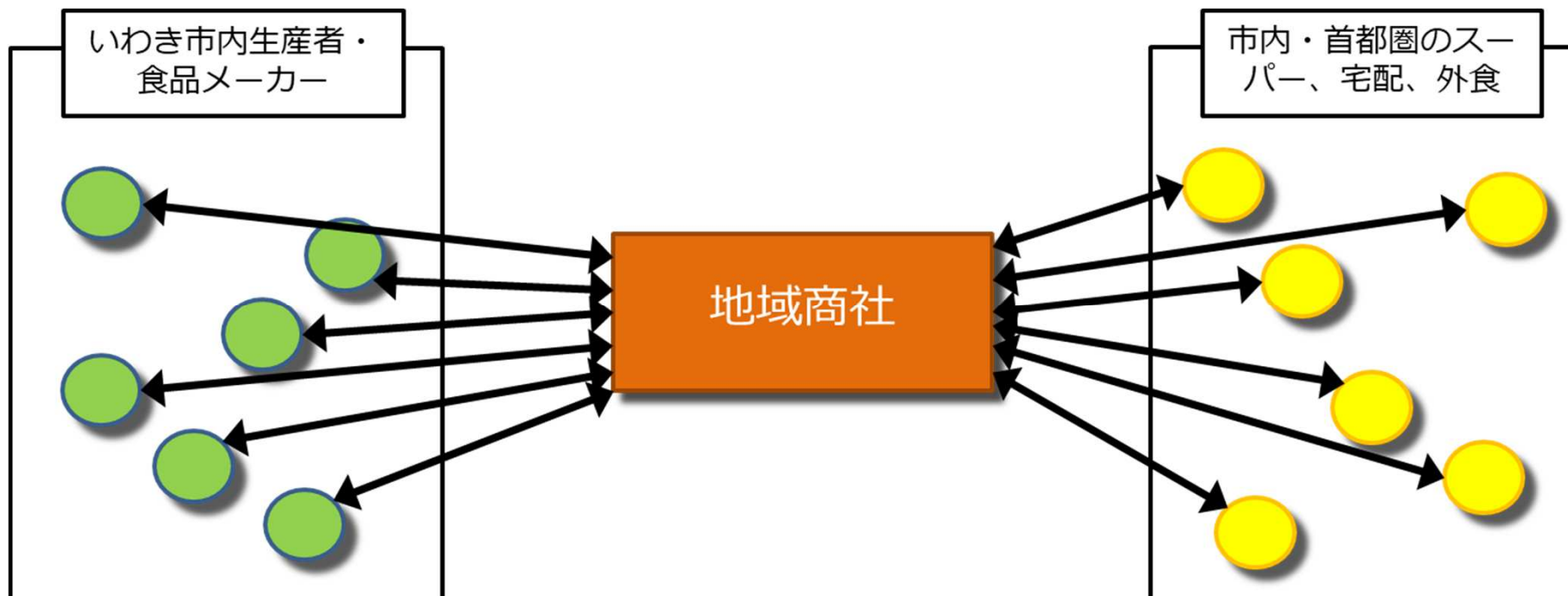
中小の生産者、食品メーカーは十分な経営資源をもっていないため、営業・マーケティングまで力を入れることが難しい

【問題点】

バイヤーの数も限られているため、広範囲の情報収集に限りがあるうえ、小口の取引先口座を増やすことは事務処理上避けたい

「地域商社」とは

« 「地域商社」 の役割 »



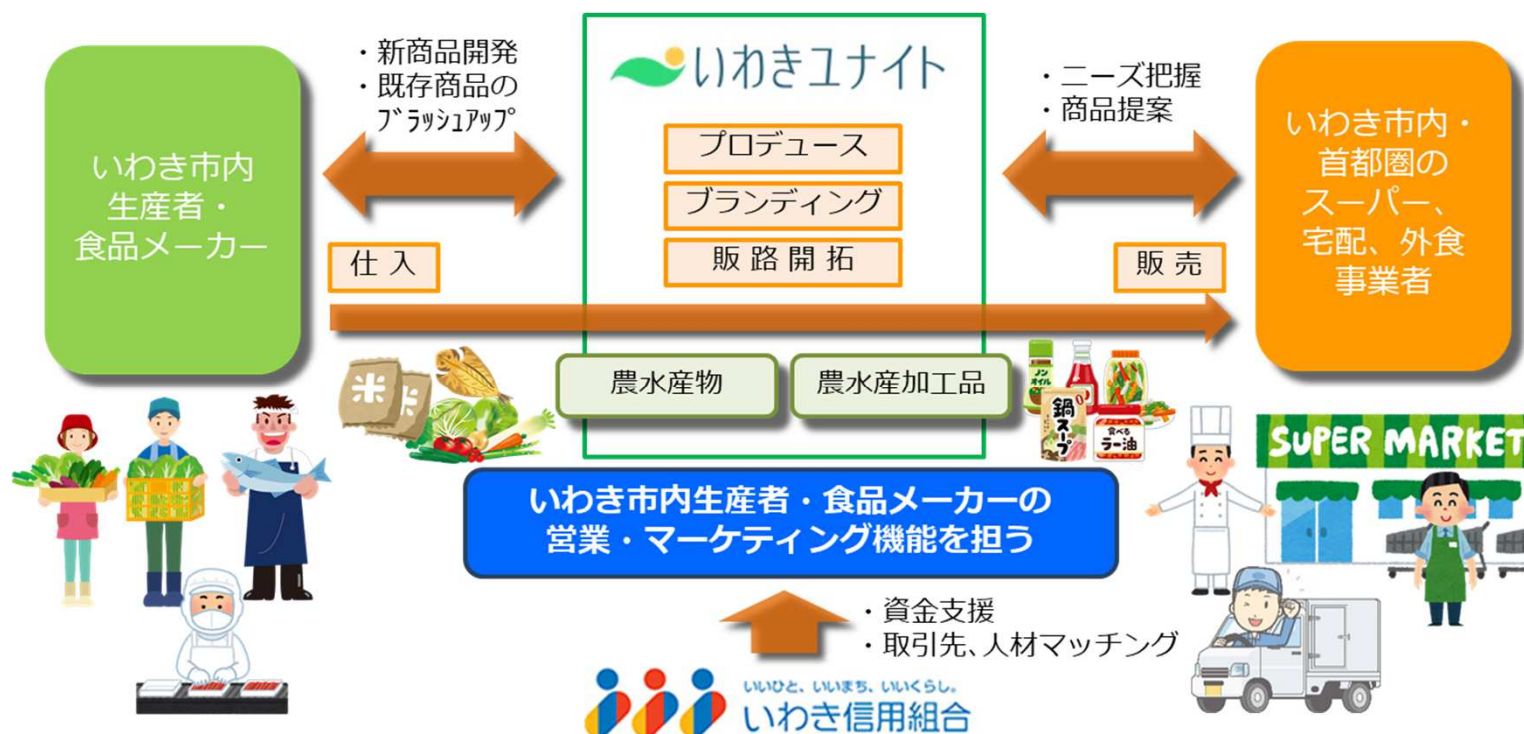
地域に密着して、地域資源の発掘、地域資源の活用法検討、市場調査、商品開発、販路開拓、販売促進活動、販売、メーカーへの販売情報の提供など、地域の生産者・メーカーの活動を全面的にサポートするとともに、全国（海外）へ積極的に地域の商品売り込んでいく。

事業内容

事業の目的：いわきの「モノ創り」を元気にする
(当面「食」の分野に注力するが、工芸分野等も視野に入れている)

事業の内容：いわきの食の価値と流通をつくる「地域商社」事業

事業の特徴：バイヤーや消費者の声を活かして、出口ありきの商品開発支援をいわきの生産者・メーカーとともに取り組み、いわきブランドを発信していく



メディア掲載実績(創業時)

福島民報
2017年
10月5日

今月下旬 2 新商品発表
いわき市の地域商社「いわきユナイト」は、いわき信用組合などが運営に携わる「磐城国(いわきの国)地域振興ファンド」の投資を受け、事業を本格化させた。

地域商社 本格始動

県内初 いわきユナイト



会社概要や事業について説明する田子CEO(右)と植松COO

地域商社とは、地域の魅力ある産品やサービスを掘り起こし、販路開拓や収益向上などにつなげる事業者で、同信組によると地域商社の発足は県内初という。十月下旬には同市

第三種郵便物認可

福島民報

双 HOMETOWN

「事業通じて地域振興」



田子社長と共同代表者の植松

いわきユナイト始動
9月29日(日)いわき信用組合から「磐城国地域振興ファンド」の投資を得て地域商社事業を開始したいわきユナイトは、いわき市小名浜の同信用組合本店で会見し、田子哲世社長が商社事業を通じて地域振興につなげたい」と意欲を述べた。

同信組によると、民間のスーパー、宅配、レストランなどを併用し、商品プロデュースやブランド化、販路開拓に携わる。同社によると現在、仕入れ先の市内の農産物生産者5軒や農業法人2社、食品メーカー2社、販路先の県内と首都圏のスーパー、レストランや回転寿司店と提携しているという。

同社は、このうち市内の食品メーカー2社とそれぞれ新商品を開発中で、今月下旬に行われる「しんくみ食のビジネスマッチング展」で新商品の商談に臨む予定という。

2017年(平成29年)10月3日(火曜日) 第21719号

いわき民報 THE IWAKI MINPO

いわき市平字田町 65-7
社 0246-23-1906
本 0246-23-8276
F 0246-23-8276
支店 0246-718-2202
F 0246-718-2205
1100 1101 1102 1103 1104 1105
いわき民報社 2017



米作の人 常務 代表取締役 田子哲世 常務 植松 常務 植松 常務 植松 常務 植松

民間出資 地域商社 「いわきユナイト」設立

本市の資源生かしメーカーと連携
「いわきユナイト」は、いわき信用組合が中心となり、民間企業から資金を集めて設立された。同社は、市内の農産物生産者や農業法人と連携し、食品メーカーやスーパー、レストランなどに商品を供給する。同信組によると、同社は、このうち市内の食品メーカー2社とそれぞれ新商品を開発中で、今月下旬に行われる「しんくみ食のビジネスマッチング展」で新商品の商談に臨む予定という。



片岡抄

今年10月4日の午後、いわき市平字田町のいわき信用組合から「磐城国地域振興ファンド」の投資を得て地域商社事業を開始したいわきユナイトは、いわき市小名浜の同信用組合本店で会見し、田子哲世社長が商社事業を通じて地域振興につなげたい」と意欲を述べた。

児童や保護者ら約20人が出席。同運営の代表者委員が挨拶し、受賞者5人に賞状と記念品を手渡した。最高賞の特選に輝いた岡田健太郎君(原町三小



コラーゲン入り「月色プリン」
いわき遠野らぱんの既存商品を
リブランディング
ハワイアンズやワンダーファーム、
ら・ら・ミュウ、ほるる、四倉PA、
中郷SA等で販売中



新感覚ピクルス「おここさん」

長久保食品と共同開発
ミニトマト、いちご、しいたけ、なめこな
どの酸味を抑えたピクルス
青パパイヤなど続々と新アイテム追加



いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」 使用の粉末甘酒、ポンせんべい等

いわきでブランド化を進めている「Iwaki Laiki」を使用した加工品シリーズを開発
甘酒とポンせんべいからスタートし、甘酒
の製造過程でできる米麴を活用した商品も
発売予定

取扱商品



「月色プリン 会津山塩」

大人気の「月色プリン」の新バージョン
いわき遠野らぱん、酪王牛乳、会津山塩
という浜・中・会津のコラボ商品
裏磐梯レイクリゾートで先行販売



「マンゴーとパパイアの ハワイアンソース」

いわき市との連携開発商品
「フラシティいわき」関連商品
今後青パパイアの栽培をいわきで
拡大するプロジェクトを進行中



いわきゴールドしいたけを使用した 「うまくて生姜ねえ!! GOLDEN」と 「きのこの雑穀ご飯の素」を発売

吾妻食品（猪苗代）GNS（二本松）とのコラボ商品

GNS・吾妻食品（猪苗代）・弊社等で
県内の地域商社連携「あきんどプロジェクト」
が発足
その第1弾商品。

福島県×ポケモンコラボ

ふくしま応援ポケモン・ラッキーの「しあわせたまごプリン」 「ピーチジャンボゼリー」

福島県観光セクションのキャンペーン（2020年度まで）

2019年8月発売、福島県内限定販売

スパリゾートハワイアンズ、ワンダーファーム、県内サービスエリア、マルト等で販売



現在の取り組み～取扱商品

国産青パパイヤ活用商品「肉専用スパイス」発売

国産青パパイヤの出口商品としてスパイスを発売
青パパイヤの酵素の力で肉がやわらかくジューシー
になり、味付けもこれ1本で完結
今後シリーズ化予定

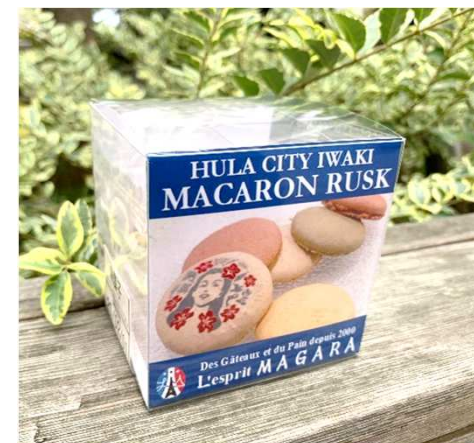
肉専用スパイス
BBQ SPICE バーベキュースパイス
スパイスを知り尽くしたプロがつくるBBQ専用スパイス。ガーリックとペッパーに唐辛子も加えてパンチのある味に、ハーブの風味もあります。

HOT SPICE ホットスパイス
辛さと旨味が食欲をそそる魔法のスパイス。唐辛子たっぷりの辛味に、ガーリックとペッパーのほか野菜の旨味も加えたスパイス。

BAK KUT TEH SPICE バクテーススパイス
エスニックなクセの強さがクセになる。シンガポールなどで食べられている薬膳料理「バクテー」の味を再現したクセになるスパイス。

焼く前のお肉にふりかけ15分
おくだけで、パパイン酵素がお肉
を柔らかくし旨味を引き出します。

ふくしまみらいチャレンジプロジェクト連携商品



メディア掲載実績②



メディア掲載実績④



水産新報 2018年(平成30年)4月16日

三陸加工流通版

フードセレクション開催 販路開拓へプロデュース

【いわき】いわきの食の魅力を発信する「いわきフードセレクション」が、郡山市の「うすい百貨店」で15日開幕した。いわき市産の食品が一堂に集まり、販売されている。このイベントは、いわき市産の食品を広く知ってもらうことを目的として開催されている。会場には、いわき産の食品が豊富に並び、多くの人々が興味を示している。また、このイベントを通じて、いわき産の食品の魅力を広く発信し、販路を開拓していくことが目指されている。

いわきの食発信 郡山

うすいに特設コーナー

いわき地域「クシヨシ」を開設した。の食の魅力を 六月十日までの二カ月 発信している 間限定。

地域商社「いわき」は、いわき地域の 地産地消を推進し、地元企業と連携し、地 元産の食材を生かした商 品開発やブランド化を 郡山市のうすい 百貨店・地 下一階食品売 場にて販売コ ーナー「いわ き」で紹介し、PRや 販路拡大につなげよう

と、いわき商工会議所 の協力を得て初めて企 画した。

水産加工品や農産加 工品、調味料、飲料、 スイーツなど約六十種 類が並んでいる。市外 ではほとんど販売され ていない商品もあり、 フリン、ピクルス、サ ンマの加工品、トマト ジュースなどが人気を 集めている。同社の植 松謙社長は「いわきこ の食品を味わってほしい」と呼び掛け ている。

【いわき市】いわきの食の魅力を発信する「いわきフードセレクション」が、郡山市の「うすい百貨店」で15日開幕した。会場には、いわき産の食品が豊富に並び、多くの人々が興味を示している。また、このイベントを通じて、いわき産の食品の魅力を広く発信し、販路を開拓していくことが目指されている。

【いわき市】いわきの食の魅力を発信する「いわきフードセレクション」が、郡山市の「うすい百貨店」で15日開幕した。会場には、いわき産の食品が豊富に並び、多くの人々が興味を示している。また、このイベントを通じて、いわき産の食品の魅力を広く発信し、販路を開拓していくことが目指されている。

主な取引先①



マルト市内の大型店8店でコーナー展開
地元産品販売開始



ヨークベニマルいわきゾーンで
「月色プリン」等の地元産品販売開始



主な取引先②



全国に約100店舗を展開している「わくわく広場」(株)タカヨシに福島県産品を約30商品納入



主な取引先③



「月色プリン」が高速道路サービスエリアで大人気
常磐道 中郷（上下）、四倉（上下）、谷田部東（上り）
東北道 岩手山（下り）、安達太良（上下）、蓮田（上り）
磐越道 阿武隈高原（上下）
取扱店舗拡大中！

主な取引先④



「月色プリン」と「まつなが牛乳カスタードプリン」が
首都圏のローソンスリーエフとナチュラルローソンで
スポット販売開始



主な取引先⑤



いわき市内：スパリゾートハワイアンズ、いわき・ら・ら・ミュウ、ワンダーファーム他



福島空港（福島エアポートサービス）

のもの（JR東日本商事）



温浴施設「関の湯」、「ホテル花天」のお土産売り場プロデュース



地域商社連携「あきんど」への参画

2019年2月「あきんど」始動～福島県内の地域商社連携

「あきんど」コアメンバー

- ・ 中通り
GNS（二本松市）
- ・ 会津
吾妻食品（猪苗代町）
- ・ 浜通り
いわきユナイト



株式会社あきんどは、
「浜中会津の生産者・加工業者・
流通事業者・小売店」が参加する、
地域商社の連携プラットフォームです。

福島県内ネットワークで困ったを解決します。



あきんど×ソリューション



【原料調達から販売まで一貫体制で提供できるノウハウ】
原料の調達から、商品開発・加工・流通・デザイン・販売まで、
全てをプロデュースするノウハウを持っています。

地域商社連携「あきんど」への参画

「あきんど」×「いわきユナイト」～大手企業との取引開始



dinos

ヨシケイ福島、ディノスで福島県産商品の取り扱い開始



JR東日本グループとの
連携強化
(いわき駅から開始)



(株)あきんどにおいて、AKOMEYA (サザビーリーグ)、
ゼビオ、オイシックス・ラ・大地との取引口座開設
(今後いわきユナイト商品も提案予定)



「あきんど」×「いわきユナイト」～商品開発のスピードアップ

いわき市のシティセールスのメインコンテンツ「フラシティいわき」の商品を「あきんど」参加企業とコラボで開発

今後、いわき市内の観光施設や高速道路サービスエリア等でコーナー展開し土産需要を取り込む



「ふくしま！浜・中・会津の困った市」開始

2020年4月コロナ禍の福島県内事業者と連携し「困った市」スタート

新型コロナウイルスの影響に伴い、「出荷がストップしてしまった」、「イベントが中止になってしまった」、「商品の賞味期限が近い」などで困っている福島県内の事業者を募り、弊社ECサイトで販売

福島県内の70社280商品が出品（食品、工芸品等）



在庫「困った市」 お得に買えます=福島

読売新聞 2020.05.11 東京朝刊 25頁 (全299字)

新型コロナウイルスによる営業自粛などで困っている県内業者の在庫商品を販売する通販サイト「ふくしま！浜・中・会津の困った市」が開設された。

喜多市市の豆菓子専門店「おくや」などが企画し、8日現在、55社が参加。浜通りの水産加工品や中通りの果物加工品、会津の喜多方ラーメンなどが割引販売されている。

同社は3月から、市内のメーカーの在庫を販売する「会津喜多方困った市」を道の駅などで開催してきたが、緊急事態宣言でそれも難しくなり、通販に移行した。サイトへは、いわき市の地域商社「いわきユナイト」のオンラインショップ「I&U」のトップページ (<https://iandu.shop-pro.jp/>) から入れる。

「ふくしまみらいチャレンジプロジェクト」 (経済産業省事業)

福島県被災12市町村の事業者を対象とし、新たなビジネスの創出に向けた事業者間のマッチングを行うとともに、販路開拓を中心に事業者の自立化を目指し、サポートを行うプロジェクト。

専門コンサルタント、販路支援チームとして5社程度の支援を実施。

(現在も継続中)

ふくしま
相双の夢



届け!

「常磐もの」市場調査事業 (いわき市水産課事業)

いわき市農林水産部水産課の事業受託。

震災や原子力災害による操業自粛、風評被害などの危機に直面してきたいわき市の水産業が、水産物・水産加工品の販路拡大を推進することを目的として、福島県内の飲食店等に向けて調査を実施。水産業のプレイヤーが参加する協議会に提言。

(令和元年度)

